

随筆

ニュージーランド・ホリダイ(その2)

竹原 宏

2、ニュージーランド・ハズバンド

ニュージーランドは、レディーファーストの国である。バスに乗るときも、エレベーターに乗るときも、デパートの入口でも御婦人が優先である。この勝手の違ったマナーに私達は何度か失敗した。

ニュージーランドハズバンドとって、世界で一番奥さんを大切にする国柄である。ホテルに泊ると、朝6時頃モーニングティーが運ばれる。紅茶とクラッカーである。朝ベットの上で飲むお茶は実にうまいものである。ニュージーランドの家庭にあってもこの習慣はあるらしい。このティーを運ぶのが奥さんではなくて、御主人の役目である。

主人が早く起きて奥さんにお茶を運ぶのである。食事のときは、先ずお皿が配られる。このお皿を配るのは子供の役目である。調理は奥さんの役だが、食後の皿洗いは旦那さんの役である。

日本大使館員のT氏は、まだ、30才足らずの若い人で、ニュージーランド駐在が決って結婚され、新婚早々に赴任されたそうであるが、T氏もまたこの国で相当苦心をされたようである。ある日、御二人が自動車でデパートに買物に行かれ、帰って買物の荷物を奥さんと一緒に玄関に運んだところ、翌日、垣根越しにこれを見ていた隣の奥さんに、「あなたはもっと奥さんを大切にしなければいけませんよ。荷物の多い時は、あなたが何回も通って運べばよいので、あんなに沢山奥さんに荷物を持たせるのは可愛そうです」と注告された。また、お産で奥さんが入院されたときのことが、隣の主人が「君の庭の芝が少し長くなったよ」と注意してくれた。どこの家庭でも芝刈りは旦那さんの仕事である。「どうも有難う」と礼を述べて聞き流していた。数日たってまた注告に来て曰く、「君の所の芝刈機は故障しておらぬだろうね」と、多忙にまぎれてまた数日がたった。また、彼が「芝刈りを手伝ってあげようか、何日にやる予定かね」と誠に親切にいつてくれる。あまり熱心にいつてくれるので「何故、そんなに親切にし



ウエリントンの街角で

てくれるのかね」と反問したところ、彼は本音をはいて曰く、「実は、家内がやかましいので早く芝を刈ってくれないか」というわけである。

ウエリントンで私達3人は、本県出身の戦争花嫁さん御夫婦の招待で、1日ドライブを楽しんだ事がある。その途中ある喫茶店でコーヒーを御馳走になった。あちらでは、殆んどの店がセルフサービスで、カウンターから注文の品を自分で運ぶのである。日本女性の後からコーヒーとケーキを持って衆人注視の中を歩いた時は、全く武士道地に堕ちた感じがした。同僚2人は知らぬ顔をしており、彼女の旦那さんは日本人の手前、日本的亭主の貫禄を誇示して、一向に奥さんのサービスをしようとしなない。私が悪役を買わされた結果になった。

私達は、ウエリントンから日本船(貨物船)に便乗して、各地を視察して廻ったのであるが、この船は各寄港地で荷主を招待してセプションを催した。酔うと国を忘れ、全く賑やかに放歌放吟とジョークの応酬である。彼等の酒は強い。平素スコッチで鍛えた胃袋は、日本酒などとビール位に思っ一気大きなコップを飲み干してしまう。「カパイ」(マオリという土人語で乾杯の意)といっコップを返すのである。いくら飲んでも一向に酔った風にみえない。しかし、10時頃になると、皆そろって帰りたい素振りをする。その理由を聞いてみると、異口同音

岡山畜産便り 1965.02

に家内の手前、早く帰らないと都合が悪いという。船長この時曰く「日本にはすばらしいよい方法がある。今その方法を教えてあげる。先ず、帰ったら玄関の戸を思いきり叩きなさい。そして大きな声でお前のハズバンドが御帰還だ、戸をあけるとどなりなさい。玄関が開いたらフローア-の上にぼったり倒れて寝たふりをしなさい。風邪を引くと思ってベッドに引きあげてくれるでしょう。ベッドに上ったら水をもって来いと叫びなさい。」とジャパンハズバンドの真骨頂を御披露に及んだ所、彼等は溜息をつき、大きく眼を開いて、「ワンドフル、日本はすばらしい」。そして、「日本は戦争花嫁ばかりよこすが、君達のような頼母しい味方をどんどんよこしてくれないか」と醜子が訴えた事である。

(筆者は岡山県立酪農大学校教授)